

故 喜多義人教授 主要業績

故 喜多義人教授 主要業績

【著書（共編著）】

渡部茂己・喜多義人編『国際法』（初版）弘文堂 二〇一一年

【学術論文（単著）】

「赤十字標識の不正使用と戦犯裁判―横浜裁判における橘丸事件―」『国際法外交雑誌』 八七巻六号 一九八九年

「国際法上の免責事由としての「上官命令」の問題―学説の検討―其の一」『日本法学』 五八巻三号 一九九三年

「戦争犯罪人裁判と上官命令の抗弁―東京裁判の場合―」（深津栄一博士古稀特別記念号 国際法の政治的基礎）『日本法学』 五九巻二号 一九九三年

「戦争犯罪人裁判と上官命令の抗弁―ニュルンベルク裁判の場合―」『日本法学』 六〇巻二号 一九九四年

「国際法上の免責事由としての「上官命令の抗弁」の問題―学説の検討―（二）」『日本法学』 六一巻一号 一九九五年

「日本陸軍の国際法普及措置―将校に対する国際法教育の検討―」『日本法学』 六三巻二号 一九九七年

「第二次大戦後における「上官命令の抗弁」をめぐる議論の展開」『防衛法研究』 二二号 一九九七年

「日本軍による戦争犯罪の原因に関する一考察―太平洋戦争における捕虜の違法な取扱いの観点から―」『日本法学』 六四巻二号 一九九八年

「英軍による降伏日本軍人の取扱い―南方軍終戦処理史の一断面―」『軍事史学』三五卷二号 一九九九年

「旧陸軍の国際法教育（2-1）―陸軍将校・下士官兵に対する国際法普及措置の検討―」『陸戦研究』四八卷五五八号 二〇〇〇年

「旧陸軍の国際法教育（2・完）―陸軍将校・下士官兵に対する国際法普及措置の検討―」『陸戦研究』四八卷五五九号 二〇〇〇年

「国際社会における少数者保護制度の展開」『日本大学大学院法学研究年報』三一卷 二〇〇一年

「日本陸軍と命令服従関係（2-1）」『陸戦研究』四九卷五七二号 二〇〇一年

「日本陸軍と命令服従関係（2・完）」『陸戦研究』四九卷五七三号 二〇〇一年

「日露戦争の捕虜問題と国際法」『軍事史学』四〇卷二号 二〇〇四年

「日本軍人の捕虜に関する国際法知識」『法学紀要』四八卷 二〇〇六年

「鯨類資源の管理と国際法―国際捕鯨規制の展開―」『日本法学』七一卷三号 二〇〇六年

「国際捕鯨委員会と商業捕鯨の禁止」『日本法学』七一卷四号 二〇〇六年

「商業捕鯨の合法性と必要性」『日本法学』七三卷二号 二〇〇七年

「国際捕鯨問題と日本」粕谷進先生古稀記念論集編集委員会『現代日本の法と政治 粕谷先生古稀記念』信山社 二〇〇七年

「日本によるジュネーヴ条約の普及と適用―日清戦争における日本赤十字社の敵傷病者救護を中心として―」『日本法学』七四卷二号 二〇〇八年

「文明の戦争」としての日清戦争」「病院船の活躍した北清事変」「ジュネーブ条約締結国間の日露戦争」「昭和初期の事変と日本赤十字社」黒沢文貴・河合利修編『日本赤十字社と人道援助』東京大学出版会 二〇〇九年
「北清事変と日本赤十字社の救護事業」『日本法学』七六卷二号 二〇一〇年
「日露戦争と人道主義―松山俘虜収容所におけるロシア傷病者救護の検討―」『日本法学』八〇卷二号 二〇一四年
「西南戦争の傷病者救護と博愛社」『日本法学』八四卷二号 二〇一八年
「西南戦争の医療体制と傷病者救護」『軍事史学』五四卷三号 二〇一八年
「日本のジュネーブ条約加盟―博愛社時代の外交交渉記録から」『人道研究ジャーナル』八卷 二〇一九年
「日本赤十字社と災害救護」『日本法学』八五卷四号 二〇二〇年

【学術論文（共著）】

深津栄一・喜多義人「上官命令の抗弁」に関する国際法典化をめぐる諸問題―第2次世界大戦以前の作業―」『法学紀要』三四卷 一九九二年

Yoshito Kita, Etsuko Asami y Carmen Tirado Robles. 'Derecho Internacional Público', Francisco Barberán, Kiyohiko Kuroda y Fuminobu Okabe coords., "Introducción al Derecho Japonés Actual", 2013

【学会発表】

「日本軍の国際法認識と捕虜の取扱い」軍事史学会 第一〇四回定例報告 一九九八年

故 喜多義人教授 主要業績

「日露戦争における日本赤十字社の戦時救護活動」軍事史学会 平成二二年度研究大会 二〇〇九年

【受賞】

二〇〇一年六月 軍事史学会 阿南・高橋学術奨励賞「英軍による降伏日本軍人の取扱い―南方軍終戦処理史の断面―」